しまどり

第 113 号

2022 年 6 月

日本野鳥の会三重

http://miebird.org/

ナベヅルの塒立ち

伊勢市　中西 章

前回会報のナベヅル特集に引き続き、今回は越冬したナベヅルの塒立ちについて紹介したいと思います。12 月中旬に入り、塒と餌場が安定したことから、越冬がほぼ確定しそうになったので、1 日～ 2 日間隔で塒立ちを観察しました。旅立ちまで通算すると 60 回になりました。観察場所は宮川河口の堤防上で右岸の大湊側か、左岸の豊浜側になります。大湊側からは塒の中洲まで 300m ぐらいの距離はありますが、ナベヅルが砂州に出ていれば、飛び立つ瞬間が観察できます。豊浜側からは 800m ぐらいの距離があるので、ナベヅルの塒は見えませんが、飛び立ってから松阪の餌場に向かって上空を飛んでいく姿は壮観です。

12 月中旬から 2 月中旬までは、多少のバラツキはありますが、ほぼ 6 時 40 分から 7 時 10 分の間に塒を飛び立ちました。豊浜側から観察していると、飛び立ってからは風の影響などもあったりするので、飛行状況は毎回異なります。中洲の塒を飛び立つと、はじめは海上すれすれに飛行しながら、徐々に高度を上げて、豊浜堤防上では 50m ～ 100m くらいの高度になります（写真 1）。

写真 1　塒立ちして豊浜方面に向かってくる

目次

ナベヅルの塒立ち ---------- 2
表紙の言葉 ---------- 2
ナベヅルの旅立ち ---------- 4
2022 年ガンカモ調査結果 ---------- 6
ほのぼの鳥さん Watching ---------- 8
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 28 回 シロチドリ― ---------- 10
アカヤシオと野鳥の国見岳 ---------- 15
野鳥記録 ---------- 16
犯人は誰！ ---------- 20
追悼 ---------- 20
理事会報告 ---------- 21
事務局だより ---------- 21
探鳥会予告（2022 年 7 月～ 9 月）---------- 22
探鳥会報告（2022 年 2 月～ 2022 年 3 月）---------- 22
編集後記 ---------- 24

表紙の言葉

ツリスガラ

松阪市　小野 新子

もう随分昔のことです。春先の穏やかな日、堤防を散歩していたら葦原の方からか細い子猫の鳴き声が聞こえてきた。捨て猫だったらどうしようと思いながらも、気になり堤を下りて辺りを探してみた。しかし子猫の姿はどこにもなく“ミュ～ミュ～”と鳴き声だけが聞こえて来る。ふと見上げると 5 ～ 6 羽の小さな小鳥が葦の間を飛び回っているのが目に入った。だれだ？と双眼鏡で確かめて見ると、それはまるでサングラスをした「ちびっこギャング」のような初めて見る鳥だった。声の主がこの子たちでよかった～と思うと同時になんと可愛い小鳥たち、私はたちまち“萌え～”状態で目がハートに・・・　それがツリスガラとの初めての出会いだった。

春先になると、今でもあの“ミュ～ミュ～”と尻上がりのか細い声が聞こえて来ないか、耳をそばだて辺りを探してみる。しかしあの時以来私は彼らに出会えていない。それどころかツリスガラがいた葦原は、今ではすっかり葛に覆われ見る影もなくなってしまった。もう一度彼らに会いたいな～

写真 2　豊浜上空で横に並んでの集団飛行

一団で飛んでいくことが多いのですが、時には 2 班に分かれたり、V 字になったり、縦一列になったり、横に並んだり（写真 2)、クワクワと鳴きながら上空を飛んでいきます。行先の方向も海岸線沿いや内陸方面のコースなど様々ですが、塒立ちから 5 分ほどで見えなくなります。通常のコースだと明和町大淀あたりを通過し、20 分から 30 分かけて必ず松阪の餌場には到着します。

毎日規則的な塒立ちが、2 月 20 日過ぎた頃から変わってきました。塒立ちが 7 時半くらいからおそい時は 10 時前の時もあり、今までの行動とあまりにも違うことから、いよいよ旅立ちが近いのかと思いました。ところが様子が変化したのも束の間で、3 月に入ると日の出も早くなり、また安定して 6 時から 6 時 30 分の間に塒立ちすることが多くなりました。46 羽が餌場から旅立ちした 3 月 16 日もいつもと変わらず、6 時 15 分に塒立ちしました。ただ 2 羽が残ってしまい、結局 3 月 25 日まで居続けることになりましたが、その 2 羽も旅立ちまでは宮川河口で塒をとっていたようでした。

さて大湊側から観察した、一番多いパターンの塒立ちの様子ですが、暗い間は砂洲の上で 48 羽が団子状に固まって、嘴を羽に入れ、片足立ちで身動きせず、じっとしています（写真 3)。満潮時だと足が海に浸かったりしますが、気にならないようです。夜明け近くになると首を伸ばしたり、キョロキョロしたり、動きが出てきます。日の出とともに、少し歩いたりして、だんだん団子状から広がっていきます（写真 4)。

写真 3　夜明けまで塒をとっているところ

写真 4　日の出の時にはだんだん間隔が広くなってくる

写真 5　リーダーらしき 1 羽が飛ぶ

写真 6　追随して飛び立つ

飛び立つには 2、3 歩の駆け出しと、羽ばたかないといけないので、それなりの空間を必要とします。そのころには全員が首を上げて、羽ばたいたり、飛び跳ねたり、クワクワとよく鳴き声が聞こえてきます。そしてリーダーらしき 1 羽が飛ぶと追随して、一斉に飛び立ちます（写真 5-7）。

最終的には 48 羽無事に三重の地を離れましたが、この越冬でナベヅルの生態を少しでも把握することができました。今回の経験が、出水市に集中するツルの分散化に少しでも役立つことができればいいかと思っています。来シーズンはまた新たなファミリーが増えて、この地に戻ってくることを期待したいです。

写真 7　豊浜方面へ徐々に高度を上げていく

ナベヅルの旅立ち

玉城町　西村 泉

ナベヅル 48 羽は 11 月中旬より約 4 か月間、中南勢地方に滞在し、3 月に 1 羽も欠けることなく旅立っていきました。前号に続き、ナベヅルがいたエサ場での様子や旅立ちについて報告します。

早朝、群れは東の方向よりエサ場へ飛来し、一日の大半をエサ場で過ごしました。朝のうちは群れ全体が首を下げ、無心にエサを食べます。ある程度エサを食べると、少数の集団が少し歩いて移動し、順番に小川に下りて水を飲みます。地面から数羽の白い頭だけが見え、交互に天を仰いで水を飲む行動を観察しました。

しかし、肝心のエサが一体何なのか最後までわかりませんでした。というのもナベヅルの主食である二番穂がほとんどなくなった冬季、耕された黒い土の水田で、土塊をクチバシではねのけては、クチバシを土の中に突っ込むしぐさを見たからです。

エサ場での採餌　撮影：今井 光昌

実際、黒い水田を覗いてみても、落穂らしきものは見当たらず、生きものがいるようにも見えません。周辺の水田にも多数のカラスが群がり採餌行動をしていますが、ナベヅルと同じようなものを食べているのではないかと思いました。

旅立ち前の様子　撮影：今井 光昌

3 月に入ってから何度か飛行訓練を繰り返し、旅立ちに備えているように見えました。3 月 16 日は快晴（微風）、絶好の旅立ち日和と期待して見守っていました。9 時 5 分に 48 羽を確認、チュウヒが飛んでいましたが、遠かったためか反応はしませんでした。9 時 20 分頃、群れを見ると一斉に首を北へ向け、1 羽が羽をばたつかせていました。まもなく 1 台のバイクが農道を走り始めたため、群れは驚いて飛び上がり、鳴きながら北西方向へ 5 分ほどで消えていきました。

しばらくして、いなくなったはずのナベヅルの声がだんだん近づいてきました。すると 1 羽が、まるで悲鳴のような大声を上げながらこちらへ飛んできました。すぐに仲間とはぐれたと思いました。心配したのも束の間、後方からもう 1 羽がハイスピードで接近、横に並んだとたん鳴きやみました。とても感動的なシーンでした。2 羽は並んだままエサ場の上空を約 30 分飛翔し、北西方向へ見えなくなりました。 10時5分でした。

ところが、3 月 17 日 2 羽がエサ場に戻っていました。しかも 2 羽のうち、1 羽は幼鳥で親子のようでした。

思い起こせば 3 月 3 日のねぐら立ちの朝も、忘れられない出来事がありました。群れが一斉にエサ場へと飛んで行ったにもかかわらず、なぜか 2 羽が戻ってきました。辺りを見渡すと、1 羽だけが遅れて飛んでいました。逆戻りしてきた 2 羽は遅れた 1 羽を迎えにきて、両側から寄り添い 3 羽並んで飛んで行ったことがありました。この 3 羽は、いつも群れから離れた場所で、エサをとっていた家族だと思います。前出の 2 羽も、おそらくこの家族なのでしょう。

3 月 25 日は晴れていましたが、モヤで山がほとんど見えませんでした。いつものようにエサ場で、2 羽が並んでエサを食べ羽繕いをしていました。10 時 23 分、軽トラが近くに停まると、2 羽が首を伸ばしました。人が車から下り農作業を始めるやいなや、北西方向へ飛び去りました。この日を最後に、2 羽がねぐら場所やエサ場に姿を現すことはありませんでした。

最初に 46 羽が旅立った日（3 月 16 日）に、滋賀県で目撃されたという情報を得ました。「3 月 16 日午前 11 時 58 分、ナベヅル 46 羽が鳴き声とともに野洲川河口から南西へ通過した」と京都支部会員が目撃しました。また「3 月 16 日午後 12 時半頃にびわこバレイ辺りを 40 数羽のツルが旋回と小移動を繰り返し、高度を上げながら北北西ないし北西へ移動して、比良山地を超えていった」と別の京都支部会員が観察していました。

以上の目撃情報から、ナベヅルの一大越冬地の出水市から朝鮮半島へ渡る通常のルートではなさそうに思いますが、果たしてどうなのでしょうか？　北の繁殖地（ロシア）まで無事に帰れるよう祈るばかりです。

今回、たくさん方々のご協力により得られた観察記録が、少しでもナベヅル保護につながれば幸いです。

つたない文章を最後までお読みくださり、ありがとうございました。

エサ場に戻ってきた親子　撮影：今井 光昌

2022 年ガンカモ調査結果

津市　平井 正志

今年、2022 年のガンカモ調査は 1 月 16 日を基準日とし、1 月 9 日から 23 日までの期間で行われた。当会は県から委託された場所を少々上回る 175 か所を調査した。三重県が独自で調査した場所もあり、県内で今回は合計 312 か所が調査された。

三重県全体の調査結果を表 1 に示す。ガン類はコクガン 14 羽の他はマガンが 1 羽観察されたのみであり、ハクチョウ類はゼロであった。カモ類ではマガモ、スズガモはもっと多く、8000 羽を超え、ヒドリガモがそれに続いた。ヨシガモは数が少なく、422 羽であった。トモエガモは 84 羽であり、例年よりやや多かったが、宝光池のみで記録された。会員に人気のあるミコアイサは 88 羽であった。オシドリは 700 羽を記録し、やや増加した。アカハジロが 2 羽記録されたのは注目される。このカモは東アジアのみに棲息し、世界的にも減少が著しく、かつメジロガモとの交雑が頻繁なようである（しろちどり 110 号参照）。今回発見された 2 個体もメジロガモの影響がゼロではなさそうである。

表 2 に 2013 年から 2022 年までの三重県内ガンカモ個体数変化を示す。種類別の個体数は年ごとに大きく変化した。大巾な減少は越冬地の条件なのか、渡り、繁殖地の条件なのか分からない。カモ類は多産であり、繁殖の条件が良いと、一気に増加で

ガンカモ調査で見つかったアカハジロ　撮影：米倉 静

表1　2022年1月三重県ガンカモ調査結果

種名	個体数（羽）	種名	個体数（羽）
コクガン	14	ホシハジロ	4,406
マガン	1	キンクロハジロ	1,377
オシドリ	700	スズガモ	8,413
マガモ	8,765	トモエガモ	84
カルガモ	4,862	ホオジロガモ	16
コガモ	3,783	ウミアイサ	92
ヨシガモ	422	カワアイサ	27
オカヨシガモ	1,971	ミコアイサ	88
ヒドリガモ	7,583	アカハジロ	2
オナガガモ	2,842	カモ類種不明	236
ハシビロガモ	1,118	総合計	46,802

表2　三重県ガンカモ種類別個体数変化（2013年1月から2022年1月）

種名	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
コクガン	7	11	9	13	14	0	12	5	8	14
オシドリ	642	620	1,399	1,170	465	273	385	498	458	700
マガモ	6,870	8,313	9,729	9,316	12,657	9,323	9,268	6,442	6,113	8,765
カルガモ	2,475	3,800	2,937	3,039	7,704	3,337	3,704	3,685	5,266	4,862
コガモ	4,004	3,527	2,225	2,792	5,264	3,609	2,876	3,382	3,037	3,783
ヨシガモ	192	190	151	183	310	169	649	224	325	422
オカヨシガモ	1,006	906	1,956	909	2,364	661	1,902	1,175	1,579	1,971
ヒドリガモ	10,227	12,531	7,739	9,761	13,541	7,333	8,539	5,759	5,688	7,583
オナガガモ	5,524	3,927	3,432	4,052	10,881	3,497	4,984	5,953	3,533	2,842
ハシビロガモ	1,166	950	1,297	1,154	973	1,000	1,478	934	1,031	1,118
ホシハジロ	4,187	7,187	6,568	4,848	6,491	3,021	2,528	3,313	2,087	4,406
キンクロハジロ	2,428	3,230	3,106	1,944	2,352	1,540	1,455	1,201	1,139	1,377
スズガモ	5,018	6,445	4,386	7,221	9,902	8,075	15,123	4,697	8,508	8,413
トモエガモ	10	20	466	0	0	15	16	3	17	84
ウミアイサ	50	114	33	58	51	20	34	48	74	92
カワアイサ	6	1	5	12	27	21	30	11	26	27
ミコアイサ	27	41	52	74	66	44	92	52	90	88
ガンカモ類総合計	43,872	51,826	45,523	46,601	73,246	42,233	53,472	37,875	39,201	46,802

注：コクガン以外のガン類、及びクロガモ、アメリカヒドリ等の稀なカモ類は表示してありませんが、合計には合算してあります。

きるのであろう。その中で、キンクロハジロは明らかな減少傾向を示した。一方、ヨシガモは増加傾向であった。オシドリは 2015 年 2016 年には 1,000 羽を超えていたが、その後急に減少した。今年は 700 羽で回復傾向を示した。数は少ないがミコアイサも増加している。

表３にオシドリの多かった池を示す。神路ダムは水源地で立ち入り禁止、また宝光池もゴルフ場で部外者は立ち入れない。共に調査時は許可を得て調査している。A 池は今年オシドリが特に多かった。残念ながら公表できない。オシドリはこれ以外にも少数個体が計測して渡来する場所があるが、これも公表していない。ダム湖のいくつかはオシドリが飛来するが、遠くから見る他はない。残念ながら、身近にオシドリを観察できる場所は県内には無い。

カワアイサは河川の山間の中流で流れの緩やかな場所に滞在する。個体数はあまり変化していない。今回の調査地以外にも宮川、櫛田川などの中流域に飛来地がありそうであるが、調査地に指定されておらず、十分な調査ができていない。表 4 に主な調査地のガンカモ総個体数を示す。それぞれの調査地でも個体数は大きく変化することがある。カモ類の生息数は環境の変化に敏感に反応するようである。

表３　オシドリの多かった調査地点

調査地点		個体数（羽）
神路ダム	志摩市	200
宝光池	松阪市	192
君ヶ野ダム	津市	91
A池	・・・	87
中里ダム	いなべ市	24
水道貯水池	津市	20
クチスボダム	尾鷲市	20
青蓮寺湖	名張市	17

表4：2022年1 月三重県ガンカモ調査　主な観察地点

地点番号	市町村名	調査地点名		ガンカモ個体数（羽）	
				2022年1月	2021年1月
1	桑名市	揖斐川		390	301
2	桑名市	揖斐川河口		99	48
206	桑名市	木曽川河口		542	363
230	桑名市	木曽川下流		793	348
231	桑名市	長良川下流		654	266
7	桑名市	員弁川河口		360	324
6	いなべ市	中里ダム	＊	116	70
109	いなべ市	両ヶ池		305	202
9	四日市市	山村ダム		131	239
10	四日市市	伊坂ダム		392	361
346	四日市市	市場留下池（北勢中央公園）		449	357
347	四日市市	土取池		319	263
258	四日市市	石原産業沖埋立地		4,015	150
23	鈴鹿市	山上池		764	656
21	鈴鹿市	石垣池		341	191
228	鈴鹿市	若松沖		48	968
33	津市	安濃川 志登茂川河口		352	470
46	津市	横山池		134	187
47	津市	風早池		20	57
50	松阪市	雲出川河口		1,080	3156
52	松阪市	五主池		181	594
53	松阪市	曽原		1,434	935
59	松阪市	三渡川河口		778	2193
60	松阪市	金剛川河口		2,870	1188
61	松阪市	櫛田川河口		1,358	646
316	松阪市	四郷池(ベルファーム)		575	277
317	松阪市	笊池（ベルファーム）		1	156
116	松阪市	宝光池		622	522
340	明和町	斎宮調整池		1,863	1923
122	伊勢市	外城田川河口		736	935
67	伊勢市	宮川河口		3,593	1766
221	伊勢市	五十鈴川・汐合大橋		108	744
223	伊勢市	サン・アリーナ調整池		93	304
72	南伊勢町	内瀬（伊勢路川）		551	1147
73	志摩市	神路ダム		349	199
75	名張市	青蓮寺湖		99	80
78	伊賀市	真泥池		96	94
240	伊賀市	小田池			125
271	伊賀市	四十九新池		183	203
269	伊賀市	西光寺池		266	68
83	紀北町	片上池	＊	7	49
95	紀北町	船津川		124	42
99	尾鷲市	須賀利大池	＊	調査せず	83
108	紀宝町	新宮川河口	＊	231	171

＊：三重県直轄調査地点、無印は当会の調査地点